

## 校長先生の講義 1

いろいろな情報が流れていますので、私なりに整理をしてみました。

難しい部分もまだ多いです、日々情報も変わるとは思いますが、その点をご理解ください。

### 【福島第1原子発電所】

『50人の侍、50人の英雄』等と世界で報告されていますが、50人の勇気ある原発の職員懸命な給水活動を行い、危機的な況を逃れて、安全な状況に向かっています。

以下の通り、詳細をご説明します。

※50人：実際は放射線を避ける為に交代で作業をするので人数はもっといます。

#### ●1号機、2号機、3号機

1号機、2号機、3号機の原子炉圧力容器は停止棒が入り、停止しています。これと、格納容器は、いまだ破損、破壊は報告されていません。50名の原発職員の注水活動で、まだ安定を保っています。

現在1号機、2号機、3号機に電源が復旧し、自力で給水活動ができるようになれば、中央制御室も動き、自力冷却ができるように今週中にもなります。(写真を参照下さい。)

#### ●4号機、5号機、6号機

4号機、5号機、6号機は、定期検査で『原子炉圧力容器』『格納容器』は、停止していました。従い、この3基に関しては、『原子炉圧力容器』の『原子炉』は停止していて、現在も停止しています。ですのでチェルノブイリのように『原子炉』が破壊されることはありません。4号機、5号機、6号機には、『原子核』はないのです。

ただ、1号機～6号機には使用済み核燃料が、水の中に冷却されて保管されていましたが、津波により冷却機が止まり、使用済み核燃料が発熱しました。そのために4号機は水素が発生し、水素が爆発して建物を壊しましたが、消防庁等の勇気ある放水活動で4号機に水が放水され現在は安定しております。

また、5号機、6号機は、電源が復旧して使用済み核燃料が冷却機で通常通り冷やされるようになりました。

#### ●水素爆発

水は高熱で熱せられると水素と酸素に分かれます。分かれた水素は不安定な状況にあり、使用済み核燃料の水が冷却機能停止するのに伴って高温になり、水素と酸素に分かれ、水素が何らかの状況で爆発し、建屋の上の部分を破壊しました。

しかし、核爆発ではありません。ここを間違えないで下さい。あくまで水素が爆発した

だけで、核は爆発していません。

●使用済み燃料

使用済み核燃料は、若干の放射能はありますが、燃え残りであり、既に核分裂は終了しており、大きな核分裂を引き起こしません。ただ、水で発熱を抑える必要がありますが、津波で冷却機が使用できなくなり、1～6号機で熱を発生させているのが現状です。しかし、消防署等の勇気ある活動で使用済み核燃料のある格納庫が消防車で放水され、水で覆われています。科学者は、使用済み燃料は問題が無いと明確に言っています。

●放射線

従い11日の地震発生以来、放射能の発生量も増えておらず、減少の傾向にあります。米国等は、『原子炉圧力容器』の爆発に備え80キロの避難を要求しましたが、これは『原子炉圧力容器』が爆発したという条件のもとに出したものです。しかし、原子炉は爆発していません。

また、地震発生以来、避難距離は20～30キロで変わっていません。放射線の最初に最大400ミリシーベルトでそれ以降は出ていません。現在、250ミリシーベルトまでは現場では作業していますが、100ミリシーベルト前後の値しか出ていません。現場でも最近は、マイクロシーベルトの単位でしか出ていません。

福島以外の放射線量は、マイクロシーベルト単位でしか出ていません。それも0.1とか0.01マイクロシーベルトと言う数字です。レントゲンの1回の放射線は50マイクロシーベルトです。1,000マイクロシーベルトが1ミリシーベルトです。1,000マイクロシーベルトまでは、人体に影響はありません。学者の意見です。

また、近県で野菜に放射線が発見されていますが、基準値以下であり、人体に影響はありませんと政府、科学者が明確に言っています。

今回の地震と津波で東北地方は多大な被害を出しております。

皆様には大きな御心配をお掛けしました。東京には、地震の被害もございません。

現在の日本への最大の支援は、隣国から留学生が来ることだと思います。

2011年3月23日

青山国際教育学院

学院長 村上 誠